

QUESTION ROOM  
家庭菜園相談室

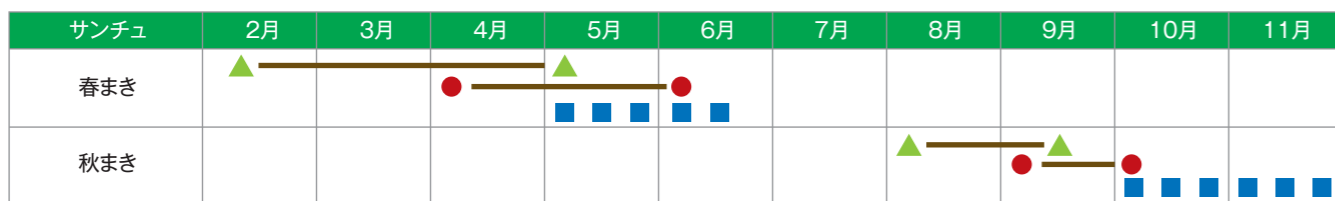
今月のテーマ 「サンチュ」を育ててみよう

焼き肉を巻いて食べることで有名な野菜「サンチュ」。日本では「掻きチシャ」と呼ばれ、お浸しなどにして食べられていました。

この「チシャ」という名前は、茎や葉を折ると乳状の汁が出ることから、乳草と言われ、それが訛(なま)って「チシャ」と言われるようになりました。現在のチシャの代表格は、レタスなど結球するものが有名です。



図1 作型目安



▲ 播種 ● 植付け ■ 収穫

栽培のポイント

- ・春まきよりも秋まきが育てやすいです。
- ・種まきでは、種に被せる土を薄くします。
- ・葉をかき採って長く収穫しましょう。
- ・乾燥が続くようなときは、水をあげましょう。
- ・日当たりの良い場所を好みます。風通しの良い場所で育てましょう。
- ・プランター栽培の場合は、土の表面が乾いたら底から水が出るまでたっぷりと与えましょう。

**品 種**：チマサンチュ(青葉種と赤葉種)があります。青葉種と赤葉種を混植して、彩を楽しむこともできます。

**種 ま き**：育苗トレー(128穴)、または9号ポット(10号)に培土を入れます。

- ・培土は、JAで販売している「愛菜1号」がおすすめです。
- ・1箇所(穴)に2~3粒の種を播き、薄く土を被せませす(サンチュの種子は好光性といって発芽に光が必要なので、土を厚く被せると発芽しにくくなります)。
- ・発芽して本葉が2~3枚になったころ、生育の良い株を1本残し、他の株は間引きします。
- ・本葉が4~5枚頃には畑に植え替えます。

**畑の準備**：植付けの2~3週間前に完熟堆肥2kg/m<sup>2</sup>、苦土石灰100g/m<sup>2</sup>を施してよく耕します。

植付けの1週間前には化成肥料(畑作名人)100g/m<sup>2</sup>を施します。

**栽植密度**：畝幅90cm、2条または3条植え、株間30cm、畝高10~20cm。

ポリマルチを張ると雑草防止と地温を上げる効果があります。

**植 付 け**：苗を植えるときに土が乾いているようであれば、植え穴に水をたっぷり入れ、水が引いたところで苗を植えます。植付け後にたっぷりと灌水します。

サンチュは害虫がつきにくいので、防虫ネットでトンネルをしなくても育てられます。

**追 肥**：植付け後は、生育の様子を見ながら、2~3週間後に、生育が遅れているようであれば、追肥を施します。

**収 穫**：葉の大きさが15cmほどになったら、下葉から順に摘み取って収穫します。

若い葉を早めに採る方が、柔らかくておいしい葉が食べられます。

葉は、全部取らずに5~6枚は残すようにしましょう。

家庭菜園に関する相談は、TAC(タック)、支店営農経済担当者までご連絡ください。

水稻

~夏季の管理ポイント~

西濃農林事務所農業普及課【係長】 山田 隆史さん

8月はハツシモの穂肥時期であり、また早生品種は出穂期を迎え、斑点米カメムシの水田への飛び込みが始まります。今年は早くからカメムシが確認されています。適切な肥培管理とカメムシ対策を実施し、高品質・多収生産を目指しましょう。

<穂肥(ハツシモ)>

ハツシモは8月に入ると幼穂形成期を迎えます。穂肥は粒数の確保が目的ですが、稈の下位節間が伸びる時期と重なります。施用時期は幼穂長、施用量は葉色で判断して行いましょう。

施用時期：幼穂長が約5cm(出穂18日前)

※6月10日田植えの場合、穂肥時期の目安を8月13日に想定しています。

施用量：水稻用葉色板で3.5程度⇒NK化成404 20kg/10a  
※葉色が濃い場合は、葉色が落ちてから施用量を減らして実施します。基肥一発肥料を使用している場合は、穂肥の必要はありません。水稻用葉色板は、「肥料農薬種子予約注文書」の裏表紙に掲載されています。

<斑点米カメムシ対策>

カメムシは、水稻の出穂後に水田へ飛来して粉を吸汁し、斑点米

の原因となります。対策としては、雑草管理と薬剤による防除があります。

**雑草管理**：カメムシの住み処となる畦畔や水田周辺部の雑草を、出穂10日前までに除去します。

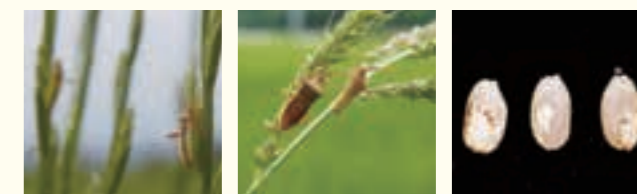
※地域ぐるみで実施すると効果的です。

**薬剤による防除**：いもち病等の予防を兼ねて出穂10~15日前に粒剤散布を行います。

※カメムシの多発時は出穂7日後頃に粒剤の追加散布を行います。

◎カメムシ対策の目安

品種名	移植期	出穂期	雑草管理	出穂前の防除	出穂後の追加防除
コシヒカリ	5月上旬	7月下旬	7月中旬	7月中旬	8月上旬
ハツシモ	6月上旬	8月下旬	8月中旬	8月中旬	9月上旬



アカスジカスミカメ ホソハリカメムシ 吸汁被害にあった斑点米

キュウリ

~栽培において注意が必要な害虫~

西濃農林事務所農業普及課【技師】 林 知宏さん

1. アザミウマ類

キュウリに被害を与えるのは、ミナミキイロアザミウマやミカンキイロアザミウマ、ネギアザミウマなど様々な種類がありますが、特にミナミキイロアザミウマによる被害が大きいです。

ミナミキイロアザミウマに吸汁されると、葉や果実にかすり状の白い斑点が生じ、芯葉の萎縮や茎の伸長が悪くなるなどの被害となります。また、きゅうり黄化えそ病を媒介するため、甚大な被害をもたらします。

対策としては、成虫の飛来を防ぐため、ハウス開口部を防虫ネットで塞ぐことが第一です。また、施設内・外の雑草はアザミウマ類の生息場所となるため、早期に除去することが重要です。栽培終了後には、虫を死滅させるため、施設の密閉処理(蒸し込み)を行います。

2. アブラムシ類

アブラムシによる被害には、吸汁による生育抑制、排せつ物によるすす病の発生と光合成の阻害、吸汁による果実の退色などがあ

りますが、最も大きな被害はウイルス病(きゅうりモザイク病等)の媒介です。ウイルス病に感染すると回復することはない、樹液や人の手などにより容易に周辺の株へ拡大します。

アブラムシ類は、黄色に誘引されるので黄色粘着板の設置や、忌避効果のあるシルバーマルチの被覆が有効です。また、天敵のコレマンアブラバチは、アブラムシに寄生して次世代を残していくため、アブラムシ類がいないほ場では増殖できません。天敵資材を導入する場合は、放飼するタイミングに注意が必要です。



アザミウマによる被害葉 果実におけるアブラムシ